

# 経済・金融 フラッシュ

## ロシアの物価状況(22年6月) —総合指数は前月比マイナスに

経済研究部 准主任研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1818 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

### 1. 結果の概要:総合指数は前月比マイナス、前年比でも大幅減速

7月8日、ロシア連邦統計局は消費者物価指数を公表し、結果は以下の通りとなった。

#### 【総合指数(22年6月)】

- ・前年同月比は15.90%、市場予想<sup>1</sup>(16.00%)を下回り、前月(17.10%)から低下(図表1)
- ・前月比は▲0.35%、予想(▲0.30%)を下回り、前月(0.12%)からマイナスに転じた

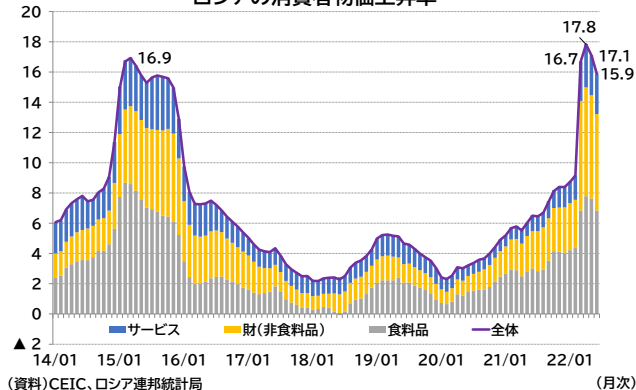
#### 【コア指数<sup>2</sup>(22年6月)】

- ・前年同月比は19.18%、予想(19.30%)を下回り、前月(19.87%)から低下(図表2)
- ・前月比は0.18%、予想(0.30%)を下回り、前月(0.40%)から減速

(図表1)

(前年同月比、%)

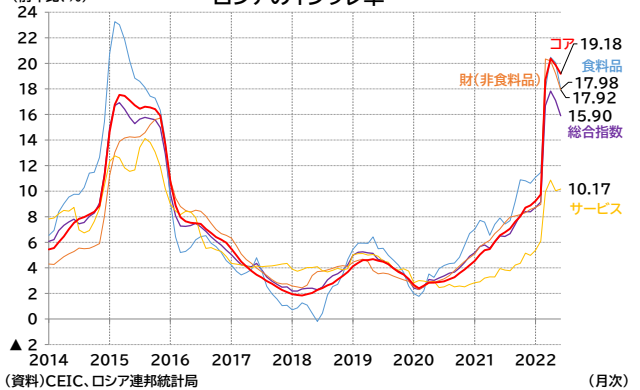
ロシアの消費者物価上昇率



(図表2)

(前年比、%)

ロシアのインフレ率



### 2. 結果の詳細:コア指数の伸び率は引き続き高水準

6月のロシアのインフレ率は前年比で15.90%となり、5月の17.10%から低下した。15年のピーク(15年3月の16.92%)も下回った。

大分類別に見ると、食料品が前年比で3月17.99%→4月20.48%→5月20.05%→6月17.98%、財(非食料品)が3月20.34%→4月20.19%→5月19.20%→6月17.92%、サービスが3月9.94%→4月10.87%→5月10.03%→6月10.17%となり、食料品および財(非食料品)が大幅に減速、サービスが若干加速という結果だった。

コア指数は前年比で3月18.69%→4月20.37%→5月19.87%→6月19.18%となりやや減速し

<sup>1</sup> bloomberg 集計の中央値。以下の予想値も同様。

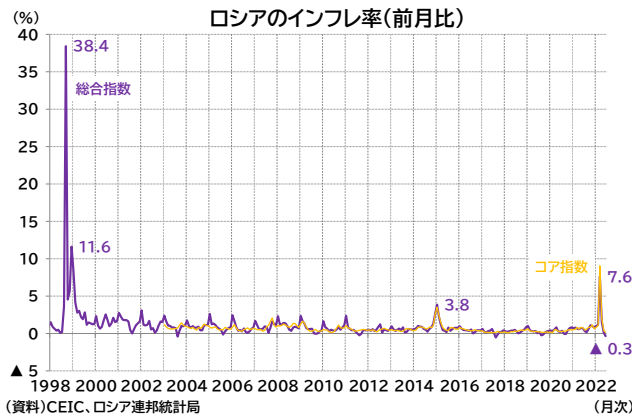
<sup>2</sup> 生鮮食品など季節的要因による影響を受ける品目や管理品目を除いた指数。

たが伸び率は高く、15年のピーク（15年3月の17.53%）を上回っている。

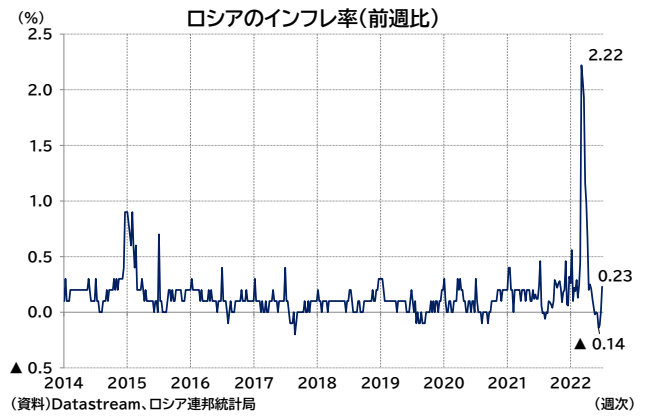
6月の前月比は総合指数で▲0.35%（5月0.12%）となりマイナスに転じたが、コア指数は0.18%（5月0.40%）と減速しつつもプラスの伸び率を維持している（図表3）。

一方、別途、ロシア連邦統計局が公表している週次のインフレ率（消費者物価上昇率）で見ると、週次ペースでの上昇は5月下旬にはゼロもしくはマイナスとなる時期が続いたが、7月1日には光熱費などの上昇を受けて前週比0.23%と再びプラス成長となり、ウクライナ戦争前よりもやや高め伸び率を記録した（図表4）。

（図表3）



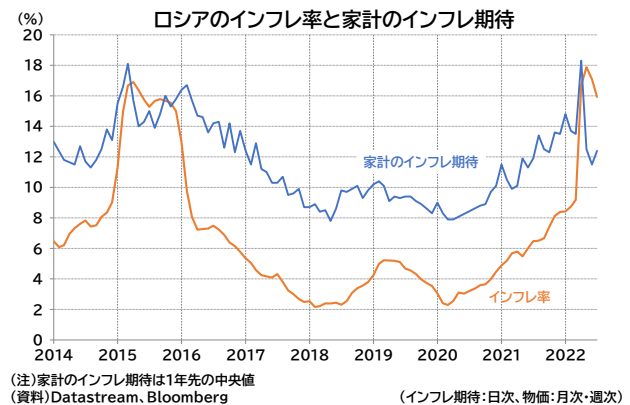
（図表4）



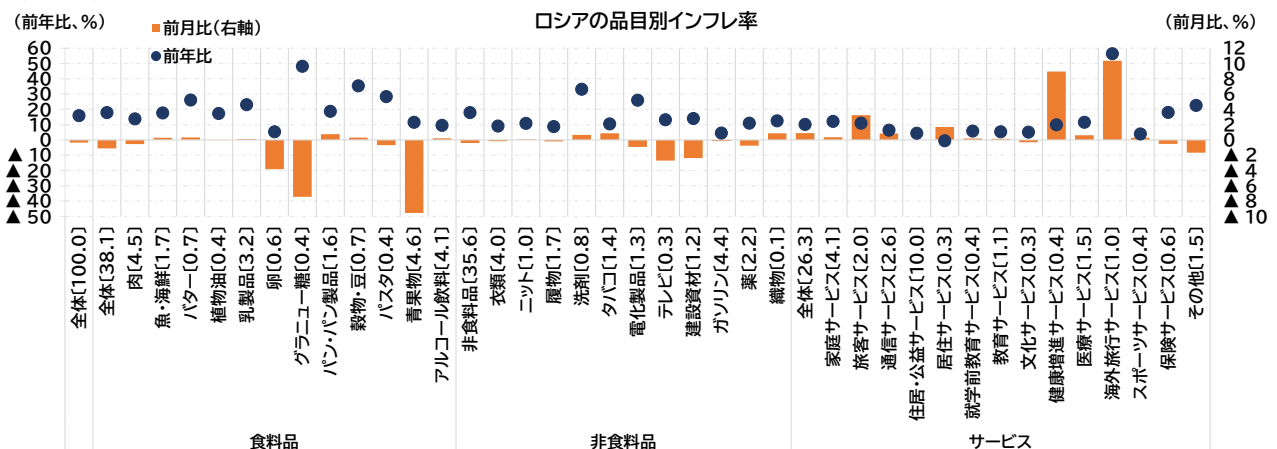
6月は前月比で物価下落が確認されたが、前週比ではマイナスからプラスに転じた。現時点では前週比の物価上昇は光熱費などの一部サービスに限定されているが、今後、他の品目でも物価上昇圧力が強まるのかが注目される。

なお、ロシア中央銀行が公表する家計のインフレ期待（1年先、実際のインフレ率よりも高くなる傾向がある）は6月で12.4%とピークよりは低い水準となっているが、5月（11.5%）からは上昇している（図表5）。

（図表5）



（図表6）



（注）大分類の中のその他の項目は残差から計算、[]内はウエイト、全品目を記載していないため、品目のウエイト合計は100にはならない  
（資料）CEIC、ロシア連邦統計局

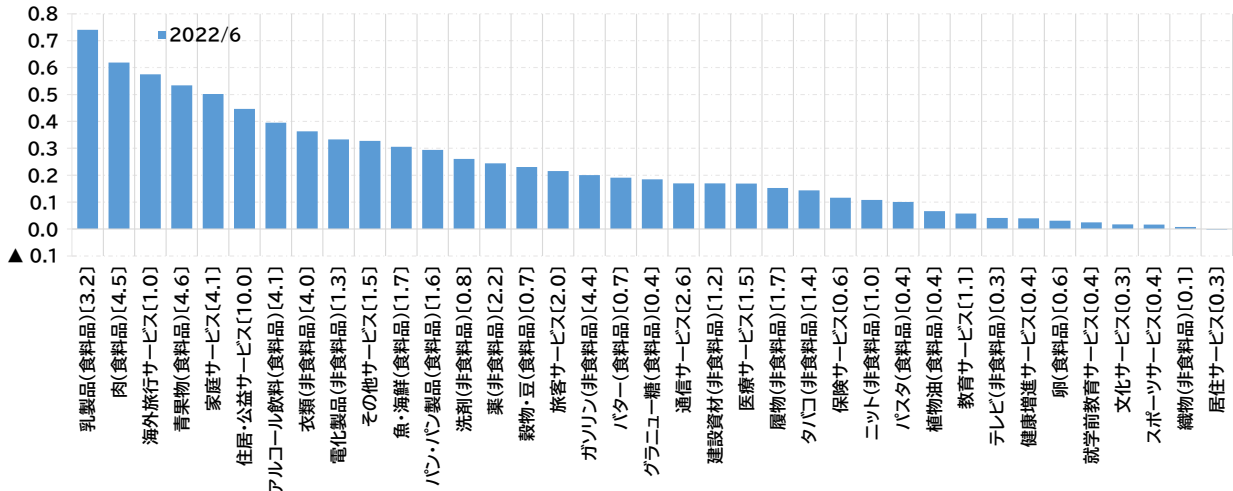
次に、品目別の上昇率を見ると<sup>3</sup>（図表 6）、6 月は前年比で海外旅行サービス（56.47%）、グラニュー糖（48.17%）、穀物・豆（35.43%）、洗剤（33.18%）の上昇率が高い。

前月比では、青果物（▲9.57%）、グラニュー糖（▲7.44%）、卵（▲3.84%）、テレビ（▲2.70%）の下落幅が大きかった。他方、前月比の上昇幅が大きかったのは海外旅行サービス（10.35%）、健康増進サービス（8.93%）、旅客サービス（3.24%）となった。6 月は旅行関係のサービス価格の上昇が目立った。

（図表 7）

（前年比寄与度、%）

ロシアの品目別インフレ率（前年比寄与度、抜粋）

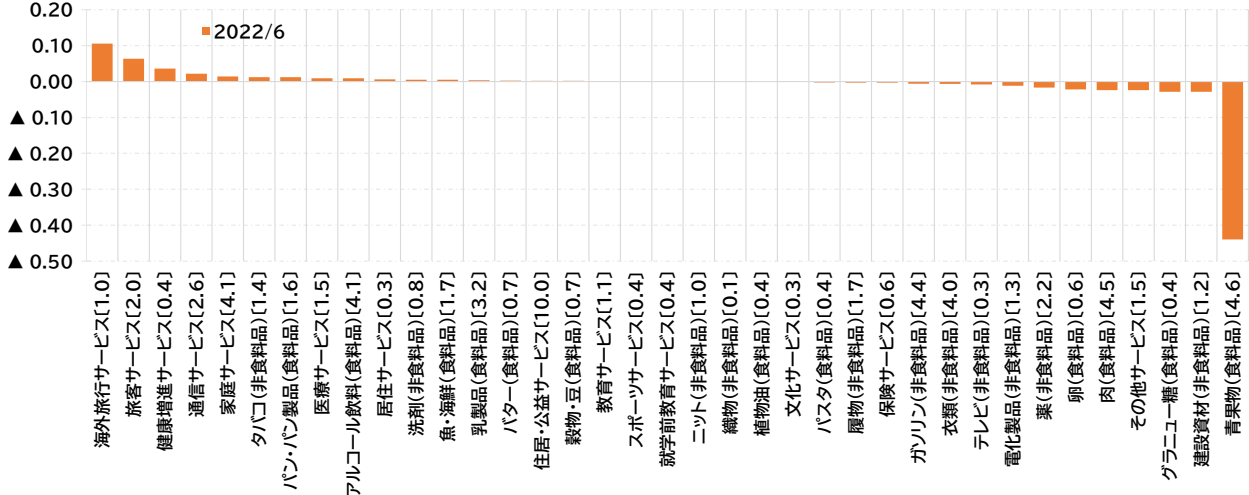


（注）大分類の中のその他の項目は残差から計算、[]内はウエイト、全品目を記載していないため、品目のウエイト合計は100にはならない  
（資料）CEIC、ロシア連邦統計局

（図表 8）

（前月比寄与度、%）

ロシアの品目別インフレ率（前月比寄与度、抜粋）



（注）大分類の中のその他の項目は残差から計算、[]内はウエイト、全品目を記載していないため、品目のウエイト合計は100にはならない  
（資料）CEIC、ロシア連邦統計局

各品目の消費ウエイトも考慮して、全体のインフレ率への寄与を品目別に見ると（図表 7・8）、前年比上昇率への寄与が大きい品目は乳製品（0.7%ポイント）、肉（0.6%ポイント）、青果物（0.5%

<sup>3</sup> 大分類である食料品、財（非食料品）、サービスをそれぞれ細目別に分類したもの（中分類）のうち、[統計局のウェブサイト](#)で公表しているものを記載。ウェブサイトで大分類が公表されていないものは、より細かい品目（小分類）のデータを記載。

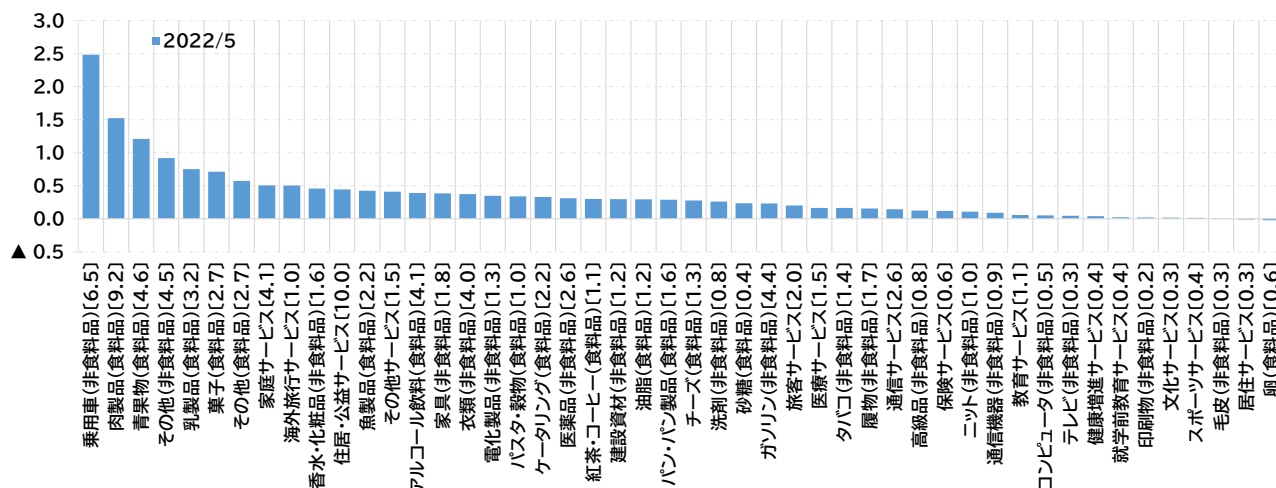
ポイント)、住居・公益サービス (0.4%ポイント) となった。前月比上昇率の寄与は、海外旅行サービス (0.1%ポイント)、旅客サービス (0.1%ポイント) がプラスに寄与する一方、青果物 (▲0.4%ポイント) が大幅マイナスとなり、前月比伸び率のマイナスに大きく貢献していることが分かる。

なお、現時点で統計局ウェブサイトでは乗用車の上昇率が公表されていないが、5月時点では、引き続き乗用車の前年比上昇率寄与 (2.5%ポイント) が大きい状況である。ただし、前月比では乗用車もマイナス寄与であり、物価上昇圧力は軽減していると見られる (図表9)。

(図表9)

(前年比寄与度、%)

ロシアの品目別インフレ率(前年比寄与度)

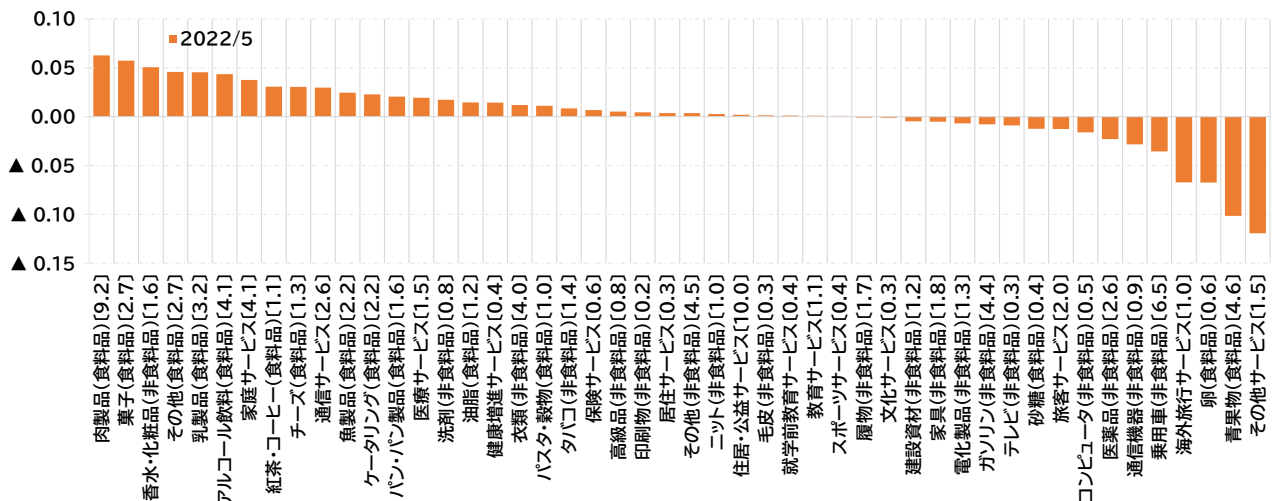


(注)各大大分類の中のその他の項目は残差から計算、[]内はウエイト  
(資料)CEIC、ロシア連邦統計局

(図表10)

(前月比寄与度、%)

ロシアの品目別インフレ率(前月比寄与度)



(注)各大大分類の中のその他の項目は残差から計算  
(資料)CEIC、ロシア連邦統計局

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。